



しろね図書館だより

No. 90

発行 新潟市立白根図書館
平成 19年11月1日

❖ 11月の展示架テーマ 「冬じたく」 第9回 おはなし講習会

日時 2007年 11月11日(日) 図書館員による講習
12月2日(日) 絵本・おはなしの実習
12月9日(日) 絵本・おはなしの実習
午後 2:00 ~ 4:00
場所 白根学習館 ルーム1 参加費 無料 (3回続けて参加できる方)

「おはなし」をしたり「絵本」を読んだりすることはおとなでもすごく楽しいことです。一緒に本の楽しさを子どもたちに伝えていきましょう。

10月の

来館者 ----- 16,134人 (視察見学 47人含)
貸出冊数 --- 15,316冊
予約件数 --- 228件

ブックバス利用者 ----- 736人
ブックバス貸出冊数 ----- 1,958冊

11クエスト情報 (しばらくお待ち下さい)

- 1位 菜園上下 (13名)
- 2位 鈍感力 (8名)
- 3位 女性の品格 (4名)
- 4位 いつか陽のあたる場所で
陰日向に咲く (3名) 他

あっという間にもう11月ですね。「来年の事を言えば鬼が笑う」と申しますが、笑うだけなら良いじゃないですか。「笑う前には福来る」とも言いますし、鬼も笑うってことは昔話の『こぶじいさま』の良いおじいさんみたいに楽しげで良いことがありますよ、きっと。(「来年の事を言えば鬼が笑う」の本当の意味は、将来の事は予測しがたいです)

ということで、ちょっと早い話ですが、白根図書館では来年1月12日(土)に文化講演会を行います。今回の講師は彫刻家で絵本作家でもある新宮晋さんをお迎えします。世界的にも有名で数々の賞を受賞している新宮さんのお話を聞けるこの機会にぜひご参加ください。

「風の囀」「小さな池」(福音館書店)「じんべえさめ」(扶桑社)「ことり」(文化出版局)などの絵本を描かれています。どの本も読み終えたときに心の中に清々しい風が吹きぬけるような感じを手えてくれます。入場は無料です。当日、白根学習館ラスパックホールまでお越しください。

詳しくはまた来月号の図書館だよりを読んでくださいね。

子どもたちといっしょに

「ね、ぼくのとちだちになって！」



エリック=カール 作
(偕成社)

小さなねずみが、ライオンやカバ、キリンなど、出てくるたくさんの動物たちに「ね、ぼくのとちだちになって！」と次々に話しかけていくというシンプルに創られた絵本ですが、この絵本を読んでいると想像が無限に広がっていきます。想像するということは子どもの成長にも必要不可欠です。

「はらぺこあおむし」や「くもさんおへんじどうしたの」などたくさんのお絵本を創ってきたエリック=カールさんが一番好きな絵本だそうです。

ほかの小さなねずみだけが「ええ、いいわ」と答えますが、ほかの動物は答えてくれません。はてさて、友達になってくれたのでしょうか。どう答えたか子どもと一緒に考えてみるのも楽しいですし、前のページに動物のしっぽがでてきますのでそこから当ててるのも楽しいです。

みなさんなら、もしねずみに「ね、ぼくのとちだちになって！」と言われたら友達になってくれますか。

第85回読書会

「銀河鉄道の夜」 宮沢賢治 作 (岩波書店他)

11月8日(日) 午後2時～ 場所: 白根学習館 ルーム2

この本を知らない人はいないというくらい日本の名作が読書会に登場です! 「銀河鉄道の夜」は賢治の死後発表されました。おとなになった今読んでみても子どもの頃と何一つ変わらない感情が思い出されます。

物語を忘れてしまった人も、大好きな人もみんなあつまれ!

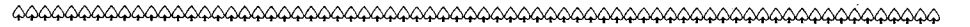
11月の行事 ブックバス (*印の学校は児童のみの利用)

3 (土)	おはなし会 3:00~		16 (金)		白根小 10:10~10:40 白井中 12:55~13:35
6 (火)		月湯中 13:00~13:50	17 (土)	おはなし会 3:00~	
7 (水)	絵本のじかん 3:00~	味方小 13:10~13:50 大鷲小* 14:30~15:45	18 (日)	第85回読書会 2:00~	
8 (木)		新飯田小 12:35~13:20 茨城根小 13:35~14:35	20 (火)		月湯中 13:00~13:50
9 (金)		小林小* 10:10~10:40 白井小 12:55~13:35	21 (水)	絵本のじかん 3:00~	大鷲小* 9:50~10:20 味方小 13:10~13:50
10 (土)	おはなし会 3:00~		22 (木)		新飯田小 12:35~13:20 茨城根小 13:35~14:35
13 (火)		根岸小* 10:10~10:40	24 (土)	おはなし会 3:00~	
14 (水)	第85回読書会 絵本のじかん 3:00~	白根北中 13:10~13:50 大通小 14:00~15:30 白根中 12:55~13:35	25 (日)	雑誌リサイクル	
15 (木)		左根地C 14:00~14:40 左根小 15:00~15:45	28 (水)	絵本のじかん 3:00~	

ドーム郡シリーズ1「ドーム郡ものがたり」

芝田勝茂 作 小峰書店(ティーンズ 913ツ)

読みごたえのある厚み、素敵挿画にきらきら輝く登場人物たちこれだけ揃ったら読まずにはいられません。芝田勝茂さんの作品を読むと、どうしてこんなにめげつなくなるのでしょうか。私は芝田さんの作品にはいつも自分と向き合う事、何かに向かっていくエネルギーを感じます。向かって行ってもたどり着けるかわからないし、どこに着けるのか、ましてや自分と向き合う事はとても難しい。それは簡単なことではないと思います。人物に重ねてその思いにのるとするのも読書の良いところですね。だからこそ希望や夢が溢れていて子どものときに出会っていたら・・・と思わずにはいられない本です。お子さんに、まだ読んでない方に、きっと大切な1冊になるのではないのでしょうか。



主人公であるクミルは、心のやさしいとても素敵な女の子です。鳥と話ができるのです。話ができるということよりも日常で彼らに語りかけるという事がとても素敵ですよね。動植物に詳しく学校で子どもたちに教えています。その教え方には気持ちが安らぐような暖かさがあります。野山を歩き、つる草を体じゅうにまいて草や木に変装するなんて、子どもには勉強というよりも遊びでおもしろくてたまりません。

彼女の明るさや勇気が周りの人たちや私たちをいつのまにか巻き込んで力を与えていきます。物語は、古い時代にドーム郡という名の地方に起こった危機を救うクミルの旅です。旅とはいっても、楽しいばかりではなくおそろしい事もあります。

例えば旅の途中でフユギモソウというおそろしい植物にあった時のこと。クミルはふだんならけっして言わないような事を口走ります。それはひねくれ、いじけたもう一人の人間のように。

「いったい、なぜ、こんなことをひきうけてしまったのかしら。わたしにドーム郡をすくえるわけがないのよ。 .. ドーム郡のえらい人たち、みんなうそつきよ！自分が苦労したくないか

ら、わたしなんかにおしつけたのよ！ .. さっさと、やめてしまえばよかった、こんな旅！」

人間の心の奥をのぞきこんだような見透かしたような言葉が印象的です。おそろしい謎の植物フユギモソウ。人間の心を凍らせ明るいクミルでもこんな風になってしまう・・・そんな危機には“かかし”という魅力的な人物やクミルに影響を受けたドーム郡の人たちがクミルを助け、困難を乗り越えていきます。クミルの旅同様に進み飽きさせずに引き込ませ、クミルの踊りや歌がとても幻想的で美しくきらきらと輝きます。ドーム郡の将来を背負ったクミルがどうなるのか、どうぞクミルの旅に出てみてはいかがでしょうか。



ドーム郡シリーズは「虹への旅」「真実の種、うその種」とシリーズは続きます。(司書 大野恵子)

第84回 読書会

平成19年10月21日(日) 午後2時 参加者4名

『どろぼうの神様』(WAVE出版)

コルネーリア・フンケ著 細井直子訳

◆ あらすじ ◆
お母さんを亡くした兄弟、プロスパーとポー。二人は、弟のポーだけを引き取るうとするおばさんから逃げ出し、お母さんがよく話を聞かせてくれたヴェネツィアへ向かいます。

二人はヴェネツィアで、映画館に住む子ども達とそのリーダー「格」どろぼうの神様」スピキオに出会います。二人は自分達を捜す探偵から身を隠しながら他の子ども達と暮らしますが、写真家イダの家からある物を盗んでほしいという「どろぼうの神様」への依頼をきっかけに、プロスパーやスピキオは不思議な事に巻き込まれていきます。

◆◆◆ 参加者感想 ◆◆◆

○ ヴェネツィアの街を想像しながら楽しく読んだ。

○ 登場するいろんな子ども達の性格を想像

して楽しかった。

○ バルバロッサの店の「のぞき見」のしかけが面白かった。

○ 子どもの頃、大人になりたいと思っていたが、今子どもに戻りたいかというところ、自分はどうでもない。「大人になって後悔してない」がポイントかも。

○ ヴェネツィアがすこきれいに描かれている。昼はきれいな街、夜は暗くて恐ろしくて、子どもにとって怖さをかきたてるようになってるのが印象的。

○ 自分が子どもの頃にこういう本を読めたらよかった。

○ 映画化しても面白いかもしれない。

○ 子ども達が「どろぼうの神様」の正体を知った時のショックが大きかったと思う。

○ 題名にインパクトがある。

○ エスターおばさんがポーをもののように思っている。この夫婦は大人の悪いところを代表しているようだ。

○ イダ自身の子どもの時代の経験があるから子ども達をあたまから怒らないで、いろいろなことのできたのだろう。

○ プロスパーとポーのお母さんがどんな人かもっと書いてあるとよかった。

○ ポーがかわいい。秘密をしゃべってしま

っても、結局みんな許している。

○ ポーがおばさんから逃げたのはさすが。よくやってくれた、と思った。

○ 映画館のカーテンの切れ端を飾ることで子ども達たちにとってそこはいい場所だったのだなあと思った。子ども達の家であり、お城だったのだから。

○ 結局、それぞれの居場所が分かれたのは、彼らの成長ということか。

○ 結末は予想と違った。

○ 続編も書けそうな終わりかたで気になる。続きを書こうと思っていたのでは。続きが読みたい。

○ あとがきを読んで、大人にこそ読んでもらいたい、と思った。子どもの気持ちをわかってほしいという思いがこめられている。

次回読書会

11月18日(日) 午後2時

「銀河鉄道の夜」 宮沢賢治 著

(岩波書店ほか)

本はカウンターで用意しています。

みなさんの参加をお待ちしています。

(内山 香)